序　章　日本石油産業史の課題 …… 1

1. 本書の課題と応用経営史　1
2. 日本石油産業が直面する問題　2
3. 日本石油産業の構造的脆弱性　5
4. 歴史分析の必要性　10
5. 本書の構成　11

I　第2次世界大戦以前

第1章　産業の創始とナショナル・フラッグ創設の挫折 …… 16

1. 日本石油産業の創始　17
2. 日本石油の垂直・水平統合戦略の限界　17
3. 石油業界におけるタイプの異なる3人の経営者　19
小　括　30

第2章　外国石油会社の日本進出と事業展開 …… 35

1. 日本への直接進出　38
2. 日本市場への浸透　40
3. 産油・精製への進出と撤退　41
4. 1910-1920年代における地位低下　46
5. ソコニーとヴァキュームの合併　51
6. スタンヴァックの成立　54
7. 石油業法施行以降の対応　59
小　括　60

第3章　外国石油会社と国内石油会社との関係 …… 68

1. アジアをめぐる国際カルテル　70
2. 「6社協定」の成立まで　72
3. 「6社協定」の成立以後　80
小　括　83

第 4 章　日本政府と外国石油会社との関係 …… 91

1.　商工省の 2 案発表以前　93
2.　商工省の 2 案発表以降　93
3.　「石油国策実施要綱」の発表以降　97
4.　法案の議会審議時　100
小　括　101

第 5 章　戦時統制期の石油確保と外国石油会社との交渉 …… 108

1.　事実経過　109
2.　商工省燃料局　116
3.　吉野信次と来栖三郎　120
小　括　126

第 6 章　先駆的な海外事業展開とその帰結 …… 136

1.　出光商会の海外展開の時期区分　138
2.　満鉄への機械油納入と「満洲」進出（1911–1918 年）　138
3.　中国北部・朝鮮半島・台湾への進出と経営上の苦難
（1919–1930 年）　142
4.　「満洲」での事業拡張と上海進出（1931–1936 年）　151
5.　外地重点主義の徹底と企業体制の再編（1937–1941 年）　157
6.　太平洋戦争下での苦闘と南方進出（1942–1945 年）　166
7.　敗戦による打撃（1945–1947 年）　170
小　括　172

II　第 2 次世界大戦以降

第 7 章　GHQ の石油政策と消費地精製・外資提携 …… 178

1.　GHQ の石油政策の転換　180
2.　メジャーズの対日戦略の転換　188
小　括　191

第8章　外資への挑戦とその限界 …… 196

1. エクソン，モービルと日本市場　197
2. 内側からの挑戦　東燃のケース　205
3. 外側からの挑戦　出光興産のケース　215
小　括　219

第9章　なぜナショナル・フラッグ・カンパニーは生まれなかったのか …… 226

1. エンリコ・マッティと日伊　227
2. 出光佐三と出光興産　232
3. 山下太郎とアラビア石油　233
4. イタリアと日本を分けたもの　236
小　括　239

第10章　日本石油産業の脆弱性とその克服策 …… 247

1. 規制と産業の脆弱性との相互増幅作用　248
2. 石油産業の規制緩和プロセスとその問題点　254
3. メジャーズとヨーロッパ非産油国・石油輸入国国策石油会社の動向　266
4. 日本の石油産業の進路と規制緩和のあり方　270
小　括　274

第11章　競争力構築をめざす新しい動き …… 279

1. 日本石油産業の脆弱性　280
2. 脆弱性克服への2つの途　282
3. 上流部門での水平統合　287
4. コンビナート高度統合と「下流の技術力で上流を攻める」　292
小　括　301

終　章　日本石油産業の国際競争力構築 …… 305

1. 日本石油産業における歴史的文脈　305
2. 日本石油産業の2つの脆弱性　309
3. 脆弱性克服・競争力構築の原動力　309
4. ナショナル・フラッグ・オイル・カンパニーへの途　310

参照文献　313
あとがき　321
図表一覧　325
事項索引　329
企業名・組織名索引　333
人名索引　339